



車特集
第11弾

こばやしかいと
弟：小林魁杜先輩 日産フェアレディZ34

こばやしたかと
兄：小林崇人先輩 ダイハツ コペン

兄と弟 スポーツカーに乗る 走るこだわり 兄はコーナー 弟は直線

PROFILE

兄：小林崇人（こばやしたかと）先輩
2016年本校環境化学科卒業(ハンドボール部所属)
株式会社日立建機ティエラ勤務
(ショベルカー フロント部製造)
【所有車種遍歴】1台目キューブ・2台目タント・
3台目コペン(赤)・4台目コペン(白)←現在

弟：小林魁杜（こばやしかいと）先輩
2019年本校機械科卒業(ハンドボール部所属 部長)
株式会社村田製作所勤務 (管理部)
【所有車種遍歴】1台目ウェイク・2台目Z34←現在

お待たせしました！車特集第11弾！車大好き記者の(竜)がお送りします。ダイハツが生んだ軽オープンスポーツカー「コペン」と日産が誇るスポーツカー、フェアレディZシリーズの「Z34型」の2台が小気味いい音とともに現れた。どちらもスタイル・走りにこだわった正真正銘のスポーツカーだ。ちなみに僕も1番好きなジャンルは世代を問わずスポーツカー。給料をほぼほぼ愛車に突っ込む八工OB兄弟のこだわりをとくとご覧あれ。



↑車大好き部長(竜)

軽スポーツカー「コペン」をこよなく愛する兄
「一生スポーツカーしか乗らん」

コペンは2002年発売、現在までに2世代ある。兄の崇人(たかと)先輩が乗るのは2009年式の初代コペン。型式はL880K型、0.660直列4気筒DOHCのJBD-DET型エンジン+ターボで64馬力を発揮する。加えてECU(エンジン)を制御するコンピュータ)交換により80馬力にパワーアップされている。

昔からスポーツカーが好きだった崇人先輩。自身の車として3台目に所有したのは赤いコペン。中古で160万円。鈴鹿スカイラインがお気に入り。のドライブコースだ。しかし崇人先輩は、弟から「控えめな頭文字D」と表現される攻めた運転をする。赤コペンは最終的にピストンが焼き付きエンジンが壊れてしまった。その後、今の相棒白いコペンを手に入れる。中古で120万円で購入し、とことんカスタムした。フロントバンパーはパテ塗りから自分で手を加えた。

「コペンじゃないように見せたい」との言葉通り、ボディを飾る特徴的なエアロパーツとホイールによって元の愛らしさは薄れ、カッコよさが一段と増している。

またこれから欲しいスポーツカーは「スイフトスポーツ・フィットRS・ヴィッツRS」と答えた崇人先輩。この3台もコペンと同様にFF(前輪駆動方式)の車だ。「FFが攻めやすい」と、走りにこだわったチョイスだ。

さてそんな先輩だが、年内にご結婚される。プロポーズするにあたり「一生スポーツカーに乗らせてくれ」というお願いをして、受け入れてくれた彼女さんだからこそ、添

通称 Z34 (ゼットサンマン)
弟「日産のスポーツカーが好き」

フェアレディZは半世紀以上続く歴史を持つ、日産を代表するスポーツカーだ。今年待望の新型が発売された。

弟の魁杜(かいと)先輩が乗るのはシリーズ6代目のZ34型、エンジンは3.7ℓ V型6気筒DOHCのVQ37VHR型で336馬力を発揮する。この車は「ニッパ」モデルで約350馬力までパワーアップされ、外装カスタムがメーカーで施されている。

もともと日産のスポーツカーが好きだった魁杜先輩。八工卒業後に見たカーアニメ「頭文字D」の影響でますますスポーツカーに乗りたくなった。

このZ34での遠出は今のところ名古屋。高島市のメタセコイア並木へ行こうと出発したものの、米原ジャンクションで分岐を間違えてしまった。

「どうせやし名古屋行くか」と急遽プランを変更し、味噌カツを食べて帰って来たという。ハッピネスもドライブの醍醐味だ。

兄弟2人の走りへのこだわりは違う。崇人先輩は「コーナー」魁杜先輩は「直線」と正反対だ。また魁杜先輩の運転は母から「荒い」と言われるそう。しかし、そうは言いながらも母はニヤニヤと楽しそうに隣に乗ってくれる。

これから「大きなりアウイングが欲しい」と魁杜先輩。崇人先輩も「ウイングが欲しい」と考えることは似ている兄弟。

今後、ますます充実したカーライフが待っているに違いない。

↓コペンの足回りを飾るエンケイ製ホイール。その後ろには交換されたブレーキディスクが顔を覗かせる。低い車高とカスタムホイールが雰囲気抜群。



↑社外品ブローオフバルブが目目を惹く80馬力のJBD-DET型エンジン。よく目を凝らすと交換されたサスペンションの上部が見える。「狭いから整備しにくい」と崇人先輩は言う。



今回取材した2台に同乗させていただきました。

まずはコペン、今まで見たことはあっても乗ったことは無かった。座ってみるとやはり狭い。けれどしっかりとホールドしてくれるシート。走りは流石のチューンドエンジン、小ぶりの車体をグイグイ引っ張って加速する力強さと硬い乗り心地、そしてオープンカーならではの風を感じられるという特権、どれも最高に楽しかった。「これがコペンという車か」とそのポテンシャルにとっても感激した。

続いてZ34、こちらも見たことしかなかった。スポーツカーなので狭いとはいえず、コペンよりもゆとりを感じる。またその車格に相応しい大排気量V6エンジンのパワーとトルクが重い車体をいっせいに加速させる。1.5tの車重があるとは思えない圧巻の走り。それでブレーキもしっかりと効く。Z34の高いパフォーマンスを身をもって体感した。

小林兄弟のコペンとZ34は、スポーツカー好きな自分に大きな刺激を与えてくれた。自分も将来スポーツカーを買って、2人のようにカスタマイズやチューニングをして楽しみたいと思った。

やっぱりスポーツカーっていいな。(竜)



↑存在感たっぷりのVQ37VHR型エンジン。ニッパのタワーバーでボディ剛性の補強が施されている。



↑ブレーキランプに貼られたステッカー。ブレーキを踏むと「FAIR LADY Z」の文字が光る。